

サクラマスの遡上確認 流域生態研究所による魚類調査

- 日時：平成30年9月4日（火）
- 場所：雨煙別川

栗沢頭首工の魚道が整備されて以来、毎年、サケマス類の遡上が確認されるようになりました。そして今年も流域生態研究所による魚類調査でサクラマス(オス1尾)を確認しました。体長は約50cmできれいなサクラ色が出ていました。別調査では産卵床も確認されており、良好な育成環境を如何に作っていくかがこれからの課題になります。今年から始まる「かわまちづくり支援制度」(※1)を使った河川整備で雨煙別川が魚たちにとっても、市民にとっても「いい川」になることを願うばかりです。

※1「かわまちづくり支援制度」

国土交通省が進める「かわまちづくり支援制度」は、地域が持つ資源や知恵を活かし、関係機関の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取り組みです。



左側のオスには繁殖期の特徴「ハナ曲がり」が見られます。



魚体には、婚姻色であるきれいなピンク色が出ています。

雨煙別川の河川清掃



魚道の草刈り



サケ、マスが帰る川をきれいにしよう!!

(雨煙別川の清掃と魚道の草刈り、樹木の伐採)

- 日時：平成30年9月15日（土）9：00～
- 場所：雨煙別川、栗沢頭首工魚道

「サケ、マスが帰ってくる川をきれいにしたい」という気持ちをこめて、川の清掃が行われました。震災後であることから規模を縮小しましたが、栗山JC、NPO雨煙別学校、栗山町役場、江別河川事務所等が参加して雨煙別川ではゴミ拾い、栗沢頭首工では、魚道(通称:サーモンロード)に生えた草刈りとヤナギの伐採を行いました。サケ、マスだけでなくすべての生き物がよるこんでいるのではないのでしょうか! 皆さんお疲れ様でした。

夕張川流域会議

「栗沢頭首工とハサンベツ川の魚道視察」

ハサンベツ川



↑ 湿性植物再生地



↑ 石組み魚道

- 日時：平成30年10月25日（木）
- 視察場所：ハサンベツ川、栗沢頭首工魚道
- 意見交換場所：コカコーラ環境ハウス雨煙別学校

昨年の流域会議で「魚が上がりやすい川づくり」を会議テーマにすることが提案されたことを踏まえ、栗沢頭首工とハサンベツ川の魚道視察を行いました。栗沢頭首工の魚道では、夕張川自然再生協議会や栗山JCが中心になって行った魚道の草刈り活動の管理活動の報告をしている際、なんと、偶然遡上してきたサケを見ることができました。ハサンベツ川では、運び込んだ泥炭での湿生植物の増殖試験地、市民参加の工事で作られた石組み、流域生態研究所の指導、監修で作られた魚道を見ていきました。魚類調査では、32箇所のサクラマス産卵床が報告され、魚道を使って魚類が遡上していることが確認されました。

栗沢頭首工の魚道川



↑ 上流



↑ 下流(サケ目視!)

夕張川の生き物たち オオムラサキ

オオムラサキは、羽を広げると8cmを超える大型のタテハチョウの仲間です。日本の国蝶にも選ばれています。蝶は「ひらひら」飛びイメージがありますが、オオムラサキは、はばたきが俊敏で滑空するように早く飛びます。卵から孵化した幼虫は越冬し、4月頃からエゾエノキの葉を食べ、脱皮を繰り返して成長していきます。寿命は約1年で成虫がみられるのは夏の間1ヶ月くらいだそうです。札幌では、以前は円山、藻岩山で、近年は八剣山などで生息しているようです。栗山町は生息域の北東限になるそうで、町民による保護活動が行われているほか、今年オオムラサキ館(※2)がオープンしました。

参考文献：「札幌の昆虫」北海道大学出版会、「栗山の自然をさぐる」栗山町教育委員会

オオムラサキの一生：卵から孵化した幼虫は1齢となり、餌となる植物を食べ成長、脱皮して2齢となります。これを繰り返し6齢のあと蛹になり、羽化。



成虫（オス）



カワイすぎる幼虫



オオムラサキの羽化

冬		春		夏		秋					
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4 齢幼虫 越冬			5～6 齢 幼虫		蛹化	産卵	孵化 1 齢 幼虫	2～4 齢幼虫			
						羽化 成虫					

※2オオムラサキが見られる!! 栗山町に「オオムラサキ館」がオープン

7月14日にオオムラサキ館が栗山町にオープンしました。館内には、蝶の標本や夕張川に生息する魚類の水槽展示、バードウォッチングが楽しめる観察窓もあります。屋外にある蝶の観察舎は、建物自体が「網」で覆われている構造のため、外気に触れながら、オオムラサキや他のチョウを自然に近い状態で見ることができます。

●住所：栗山町桜丘2丁目38番地5 ●電話：0123-72-3000 ●開館時間：10時～17時
●定休日：火曜日、祝日の翌日 ●入館料：無料



川と生活

由仁町東三川と栗山町円山の渡船場と橋

夕張川にも幾つかの橋がありますが、橋のある場所は昔から交通の要衝で、かつては渡船場があった所が多いようです。現在、円山橋がある場所(由仁町東三川と栗山町円山の間)にも渡船場があり、冬には氷橋(ヤナギの枝を束ねて沈め、それらが凍ることのできる橋)が架けられました。また、渡船場の上流には吊り橋(写真参照)もあったそうです。特に由仁町の住民にとって、円山地区は薪炭材の供給地で夕張川を渡河しなければ冬を越すことができなかつたといひます。氷橋や渡船がとても重要なインフラだったことがわかります。夕張川や旧夕張川にある橋を通るとき、注意して見てください。渡船場があったことを示す看板、史跡の表示が見つかる場所があります。

参考文献：「渡し守」由仁町郷土資料研究会



吊り橋の橋脚と思われる構造物

夕張川にタンチョウが来た!!

10月19日、馬追橋下流にタンチョウ3羽が現れました。長沼方面で最近目撃されている親子と思われるようです。



発行：夕張川流域会議事務局

江別河川事務所：〒067-0074 江別市高砂町5 電話 011-382-2358
夕張川ダム総合管理事務所：〒068-0546 夕張市南部青葉町573 電話 0123-55-5151

夕歩道バックナンバーは、ホームページをご覧ください。「夕歩道」で検索